

くとも10名以上、できれば20名以上が望ましいことがマニュアルに記述されており、人数が少ない場合は、個人差の影響が大きくなり、職場のストレスを正しく評価することが困難であることが示されている。またマニュアルの事例によれば、総合した健康リスクが120を超える部署には、産業保健スタッフ等による面談等のフィードバックを行い、職場に改善策の考案、実施を促している。

第1回目のアンケート調査結果から、総合した健康リスクは、一般病院歯科(管理型)＋診療所(協力型)が74.4、歯科大学病院(単独型)が86.0、一般病院歯科(単独型)が91.4、その他が97.2、大学病院(管理型)＋病院歯科(協力型)が106.4、病院口腔外科(管理型)＋診療所(協力型)が108.3、病院口腔外科(単独型)が117.4、大学病院(管理型)＋診療所(協力型)が120.2、診療所(管理型)＋診療所(協力型)が171.1の順で健康問題が起きるリスクが高くなる傾向が認められた。研修歯科医732名全体でみた場合、総合した健康リスクは105.1であった。

第2回目のアンケート調査結果から、総合した健康リスクは、診療所(管理型)＋診療所(協力型)が47.4、病院口腔外科(管理型)＋診療所(協力型)が71.3、歯科大学病院(単独型)が88.0、大学病院(管理型)＋診療所(協力型)が96.4、一般病院歯科(単独型)が99.4、その他が103.4、大学病院(管理型)＋病院歯科(協力型)が106.4、病院口腔外科(単独型)が115.2、一般病院歯科(管理型)＋診療所(協力型)が184.2、研修歯科医347名全体でみた場合、総合した健康リスクは97.9であった。ただし、一般病院歯科(管理型)＋診療所(協力型)、診療所(管理型)＋診療所(協力型)の回答者数は10名以下であり、研修施設の種別での比較検討の際には、職場のストレスを正しく評価できていないことが考えられるため、データとしては参考程度として留めておく必要がある。

平成18年度に施行した研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケート調査²⁾では、総合した健康リスクは、研修歯科医638名全体でみた場合、102.8であった。また、病院口腔外科(管理型)＋診療所(協力型)が63.2、歯科大学病院(単独

型)が78.7、一般病院歯科(管理型)＋診療所(協力型)が95.2、大学病院(管理型)＋病院歯科(協力型)が98.8、病院口腔外科(単独型)が100.4、大学病院(管理型)＋診療所(協力型)が103.2、その他が111.9、一般病院歯科(単独型)が134.4、診療所(管理型)＋診療所(協力型)が136.9の順で健康問題が起きるリスクが高くなる傾向があった。平成18年度に施行した結果と平成19年度に実施した結果からみた研修歯科医のメンタルヘルスの総合した健康リスクの推移を表3に示す。

施設数別にみた研修歯科医の総合した健康リスクは、単独型と施設数が3施設以上の場合には100以下を示したが、協力型施設数が2施設になると健康リスクは100以上を示し、健康問題が起きるリスクが高くなる傾向が認められた。

施設種別の研修歯科医の総合した健康リスクは、全国一般の標準的な集団を100とした場合、歯科大学病院(単独型)は100以下であり、健康問題がおきるリスクは小さかったが、病院口腔外科(単独型)はいずれも100以上を示し、研修歯科医のストレス状態に差異があることが認められた。また施設種別でみた場合、3回の調査結果から、施設種の健康リスクに多少の変動はあるものの、全体的にはその傾向は変わらないことが認められた。

回答者の割合が3割以上を占める大学病院(管理型)＋診療所(協力型)では、総合した健康リスクは、120.2(第1回目)から96.6(第2回目)に減少を示した。これは、第1回目の調査時点では大学病院(管理型)から診療所(協力型)へ多くの研修歯科医は出向しており、診療環境が大きく異なるため、研修歯科医はストレスを感じ結果として、健康問題が起きるリスクが高かったことが推察される。第2回目の調査時点は研修歯科医の診療所(協力型)での診療環境への順応、あるいは診療所(協力型)への出向が終了し、大学病院(管理型)に戻った時点であると考えられることから、研修歯科医のストレスがある程度緩和され、健康問題が起きるリスクが全国一般の標準的な集団レベルになったのではないかと考えられる。

3. 抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾について
抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾は、スクリ

ーニングテストの1つであり、1977年にRadloff, L. S.⁴⁾により開発された。これは、短い自己記入式の評価尺度で行うテストであり、抑うつ気分、不眠、食欲低下などのうつ病の主要症状が含まれた20項目の設問から構成され、設問の4, 8, 12, 16項目は逆転項目として組み込まれており、4段階評価で0~3点に換算して集計する。Cut-off point (区分点) は、16点であり、16点以上を「抑うつ状態」と判定し、「気分障害」の可能性が高いこと⁵⁾が示唆されている。

第1回目の調査結果から、抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾でみた結果、歯科大学病院(単独型)の平均点が17.8点、一般病院歯科(単独型)の平均点が18.7点、病院口腔外科(単独型)の平均点が21.5点、大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)の平均点が18.1点、大学病院(管理型)+診療所(協力型)の平均点が19.7点、一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)の平均点が14.3点、診療所(管理型)+診療所(協力型)の平均点が25.7点、病院口腔外科(管理型)+診療所(協力型)の平均点が19.1点、その他の平均点が18.3点であり、一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)以外、Cut-off point (区分点)の16点以上の点数であった。また研修歯科医732名の最低点が0点、最高点が60点であり、平均点が19.1点(標準偏差11.8点)であり、Cut-off point (区分点)の16点を超えていた。また、Cut-off point (区分点)の16点以上の研修歯科医は、384名(52.5%)であった。

第2回目の調査結果から、歯科大学病院(単独型)の平均点が18.8点、一般病院歯科(単独型)の平均点が20.7点、病院口腔外科(単独型)の平均点が20.4点、大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)の平均点が18.4点、大学病院(管理型)+診療所(協力型)の平均点が16.0点、一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)の平均点が26.0点、診療所(管理型)+診療所(協力型)は10点、病院口腔外科(管理型)+診療所(協力型)の平均点が16.0点、その他の平均点が18.0点であり、診療所(管理型)+診療所(協力型)以外、Cut-off point (区分点)の16点を超えていた。研修歯科医347名の最低点が0点、最高点が60

点であり、平均点が18.2点(標準偏差11.3点)であり、Cut-off point (区分点)の16点以上の研修歯科医は、171名(49.3%)であった。

平成18年度に実施した結果²⁾から、歯科大学病院(単独型)の平均点が15.3点、一般病院歯科(単独型)の平均点が22.6点、病院口腔外科(単独型)の平均点が17.4点、大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)の平均点が16.8点、大学病院(管理型)+診療所(協力型)の平均点が17.8点、一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)の平均点が17.8点、診療所(管理型)+診療所(協力型)は13点、病院口腔外科(管理型)+診療所(協力型)の18.0点、その他の平均点が20.2点であった。研修歯科医638名の最低点が0点、最高点が60点であり、17.1点(標準偏差10.6点)であった。また、Cut-off pointの16点以上の研修歯科医は、293名(45.9%)であった。

平成19年度に実施したメンタルヘルスに関するアンケート調査は、臨床研修開始から8ヵ月経過時と11ヵ月経過時での結果であったが、「抑うつ状態」に関しては平成18年度の結果²⁾と同様な傾向を示した。

4. 調査対象期間について

人間の精神状態は毎日変化するものであり、気分が晴れやかな日もあれば、どうしても落ち込んでしまう日があるのは人間として当然のことである。研修歯科医の場合、人間としてのストレス、未熟な歯科医師としてのストレス、新米社会人としてのストレスがあることが特徴⁶⁾であり、学生の身分から切り離された労働者としての社会環境、社会人としての適応、臨床研修施設の労働環境、臨床研修施設の診療環境、診療指導体制、指導歯科医の指導力、指導歯科医との相性、指導歯科医とのコミュニケーション、コデントタルスタッフとのコミュニケーション、患者とのコミュニケーションなどさまざまな人間関係、受け持ち患者数、未熟な治療技術、治療に対する知識不足・経験不足、患者1名に費やす診療時間、雑用、仕事の量的過剰・量的過少、責任の過少、研修終了後の進路、研修歯科医手帳への記載、ポートフォリオ記録への記載、DEBUTへの研修記録、研修未修

了に対する不安など、さまざまな因子が研修歯科医のストレス要因として考えられる。

今回、第1回目のメンタルヘルスに関する調査期間は研修途中時期として、平成19年11月26日から平成19年12月28日までとした。第2回目のメンタルヘルスに関する調査期間は、平成18年度に実施した平成19年2月22日から平成19年3月7日までと比較できるように、平成20年2月12日から平成20年3月3日までとした。この時期の研修歯科医は平成20年3月末の研修修了判定に伴い、DEBUTのまとめやポートフォリオ評価のまとめを行う時期と重なったため、調査時点での研修歯科医が抱えるストレス状況は高いことが平成18年度の調査結果²⁾から示唆されており、平成19年度も同様な結果を示した。研修歯科医のメンタルヘルスを考慮に入れて、研修歯科医の労働者を加味しながら、研修者という視点のもとに、指導歯科医は、研修歯科医の指導を行う必要がある。

E. 結論

新歯科医師臨床研修制度の有効性、効率性を評価するとともに、制度の見直しのための基礎的資料を得ることを目的として、必修化二年目における研修歯科医のメンタルヘルスについて、包括的、多角的に検討した。その結果、メンタルヘルスに関して研修歯科医への援助の方向性やサポートのあり方を検討する資料を得ることができた。研修歯科医は、対人医療専門職としての一般的な歯科医師の職業ストレスに加え、研修歯科医特有のストレス要因も抱えており、本研究結果から、研修歯科医は、健康問題が起きるリスクが全国一般の標準的な集団の健康リスク100と比較してほとんど変わらない傾向があることが認められた。また、第1回目、第2回目のアンケート調査により、研修歯科医の半数が「抑うつ状態」である可能性があることが認められた。医療現場にとって、適度なストレスがよりよい歯科医師臨床研修を生み出していることも事実であるが、研修歯科医がストレス反応として、抑うつ状態、燃え尽き状態に陥ることがないように配慮する必要がある。

新歯科医師臨床研修制度は、「厚生労働大臣は、

省令の施行後5年以内(平成22年まで)に、省令の規定について所要の検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする」とされており¹⁾、今後、研修歯科医のメンタルヘルスを考慮に入れた新歯科医師臨床研修制度の見直しを行う必要がある。

F. 研究発表

- 1) 第27回日本歯科医学教育学会総会・学術大会にてポスター発表予定(2008年7月11日、12日)
- 2) 日本歯科医学教育学会雑誌に投稿予定

G. 文献

- 1) 歯科医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について、医政発第0628012号、平成17年6月28日
- 2) 秋山仁志、宮武光吉：研修歯科医のメンタルヘルスに関する研究、厚生労働科学研究費補助金医療安全・医療技術評価評価総合研究事業新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究、平成18年度総括・分担研究報告書、53-68、2007.
- 3) 平成14~16年度厚生労働科学研究費補助金労働安全衛生総合研究「職場環境等の改善によるメンタルヘルス対策に関する研究」(主任研究者：下光輝一)：職業性ストレス簡易調査票を用いたストレスの現状把握のためのマニュアルーより効果的な職場環境等の改善対策のために一、1-28、2005.
- 4) Radloff, L.S. :The CES-D ;A self-report depression for research in the general population, Applied Psychological Measurement, 1:385-401, 1977.
- 5) 糠野亜紀：短期大学生の精神的健康状態に関する研究、和歌山信愛女子短期大学・信愛紀要、44：49-51、2004.
- 6) 厚生労働科学研究「新歯科医師臨床研修制度における研修歯科医指導に関する研究」担当者編：新歯科医師臨床研修制度における指導ガイドライン(試行版)、1-70、2007.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1. 研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケートで使用した第1回目の調査票

研修歯科医のストレスに関するアンケート

設問は15問あります。全ての設問に回答する必要があります。これには5分程度かかります。一部設問に置換があります。正確な統計を取るためのものですので、ご協力をお願いします。なお、このアンケートが指導歯科医や研修責任者の目に直接触れることはありません。

Q1 性別についてうかがいます。(必須)

♂ 男性 ♀ 女性

Q2 研修施設の種別は(必須)

Q3 研修施設(又は、予定)の協力型施設数は(必須)

①単独型 ②1施設 ③2施設 ④3施設以上

Q4 仕事についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その1)(必須)

そうだ まあそうだ ややちがう ちがう

非常にたくさんのごし
をしなければならぬ

時間内に仕事処理し
きれない

一生懸命働かなければ
ならない

かなり注意を集中する
必要がある

高度の知識や技術が必
要なむずかしい仕事だ

勤務時間内はいつも仕
事のことを考えていなけ
ればならぬ

からだを大変よく使う仕
事だ

自分のペースで仕事が
できる

自分で仕事の順番・や
りかたを決める事ができ
る

職場の仕事の方針に自
分の意見を反映できる

Q5 仕事についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その2)(必須)

そうだ まあそうだ ややちがう ちがう

自分の技能や知識を仕
母で使うことが少ない

私の部署内で意見のく
い違いがある

私の部署と他の部署と
はうまが合わない

私の職場の雰囲気は友
好的である

私の職場の作業環境

(騒音、照明、温度、換
気など)はよくない

仕事の内容は自分にあ
っている

働きがりのある仕事だ

Q6 最近1ヶ月間のあなたの状態についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その1)(必須)

ほとんどなかった ときどきあった しばしばあった ほとんどいつもあった

活気がわいてくる

元気がいっぱいだ

生き生きする

怒りを感じる

内心腹立たしい

イライラしている

ひどく疲れた

へとへとだ

だるい

気がはりつめている

Q7 最近1ヶ月間のあなたの状態についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その2)(必須)

ほとんどなかった ときどきあった しばしばあった ほとんどいつもあった

不安だ

落ち着かない

ゆううつだ

何をしても面倒だ

物事に集中できない

気分が晴れない

仕事に手につかない

悲しいと感じる

めまいがする

体のふしぶしが痛む

Q8 最近1ヶ月間のあなたの状態についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その3)(必須)

ほとんどなかった ときどきあった しばしばあった ほとんどいつもあった

頭が重かったり頭痛が
する

首筋や肩がこる

腰が痛い

表2. 研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケートで使用した第2回目の調査票

研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケート

設問は15問あります。全ての設問に回答する必要があります。これには5分程度かかります。一部設問に重複がありますが、正確な統計を取るためのものでご協力をお願いします。なお、このアンケートは、個人が特定できない形で集計を行いますので、個人の情報が流出することはありません。

Q1 性別を回答ください。(必須)

- 男性
- 女性

Q2 研修施設の種別は(必須)

- Q3 研修済(又は、予定)の協力型施設数は(必須)
- 単独型
- 1施設
- 2施設
- 3施設以上

Q4 仕事についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その1)(必須)

	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
非常にたくさんのごとをしなければならぬ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
時間内に仕事処理しきれない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
一生懸命働かなければならない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
かなり注意を集中する必要がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
高度の知識や技術が必要なものが多い仕事だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
勤務時間中はずっと仕事のことを考えていないなければならない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
からだを大変よく使う仕事だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分のペースで仕事ができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分で仕事の順番・やりかたを決める事ができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q5 仕事についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その2)(必須)

	そうだ	まあそうだ	ややちがう	ちがう
自分の技能や知識を仕事で使うことが少ない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
私の部署内で意見のくい違いがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
私の部署と他の部署とはうまが合わない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
私の職場の雰囲気は友好的である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

私の職場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)はよくない

仕事の内容は自分にあっている

働きがいのある仕事だ

Q6 最近1ヶ月間のあなたの状態についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その1)(必須)

	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
活気がわいてくる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
元気がいっぱいだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
生き生きする	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
怒りを感じる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
内心腹立たしい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
イライラしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ひどく疲れた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
へとへとだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
だるい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
気がはりつめている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

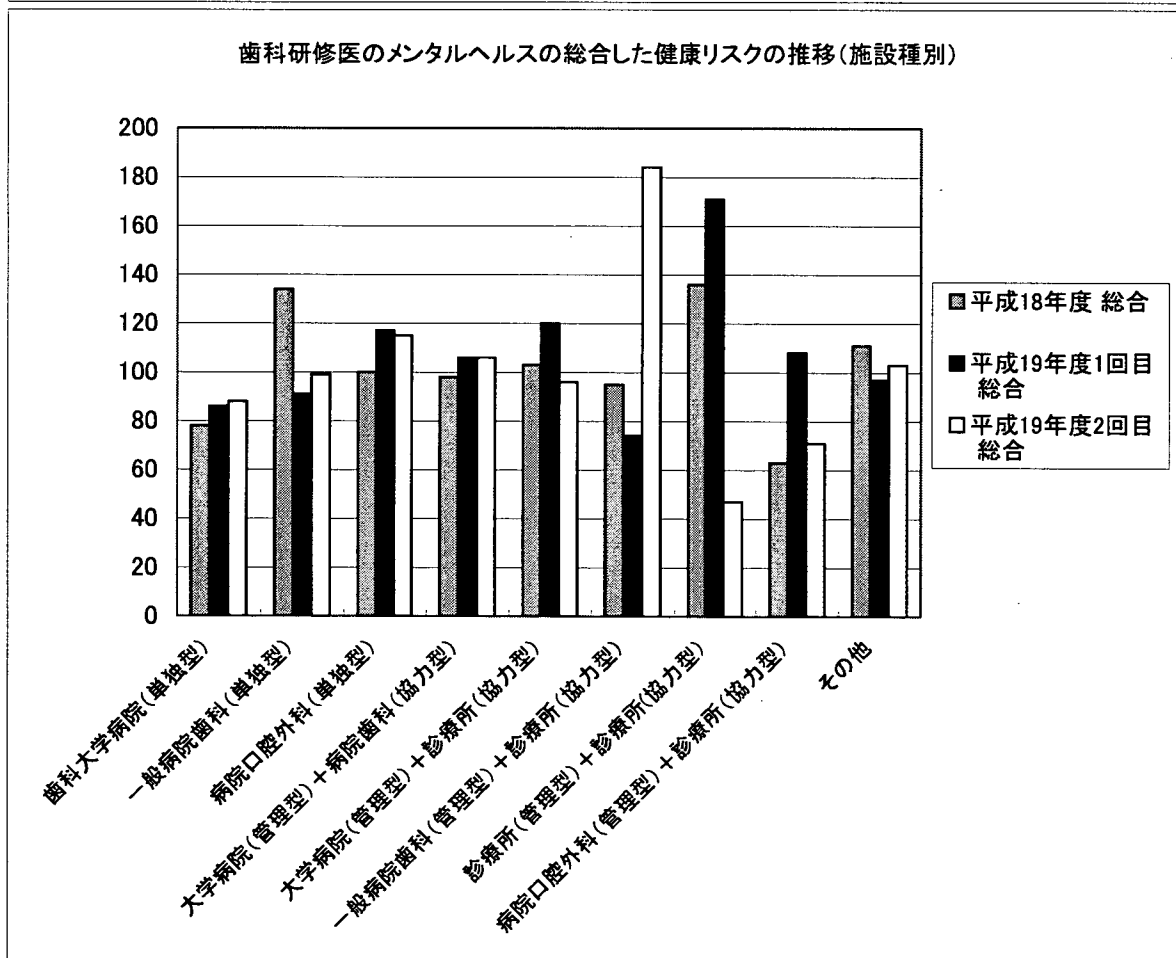
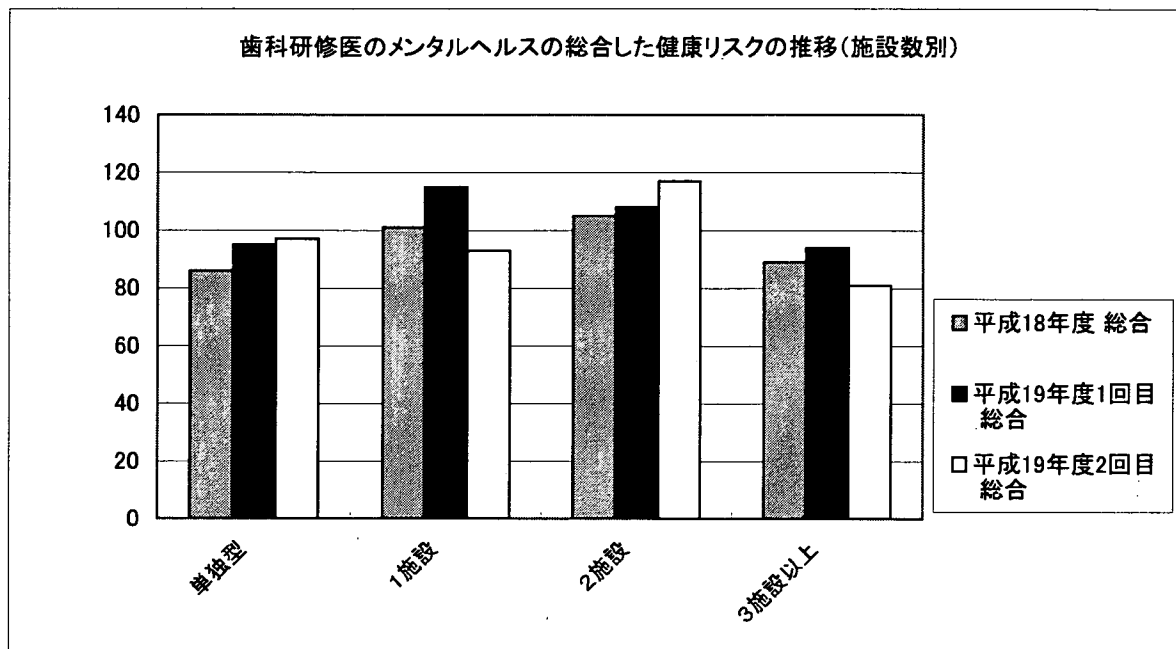
Q7 最近1ヶ月間のあなたの状態についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その2)(必須)

	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
不安だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
落着かない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ゆううつだ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
何をするのも面倒だ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
物事に集中できない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
気分が晴れない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
仕事が手につかない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
悲しいと感じる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
めまいがする	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
体のふしぎが痛む	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

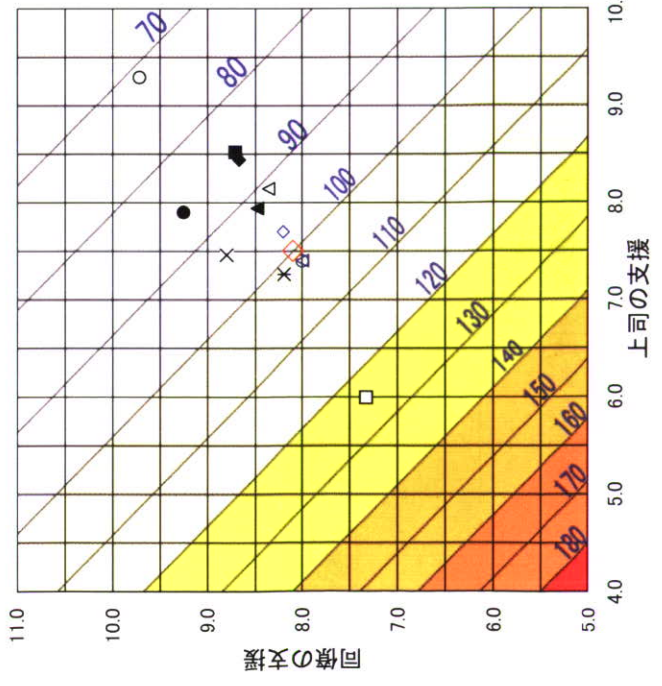
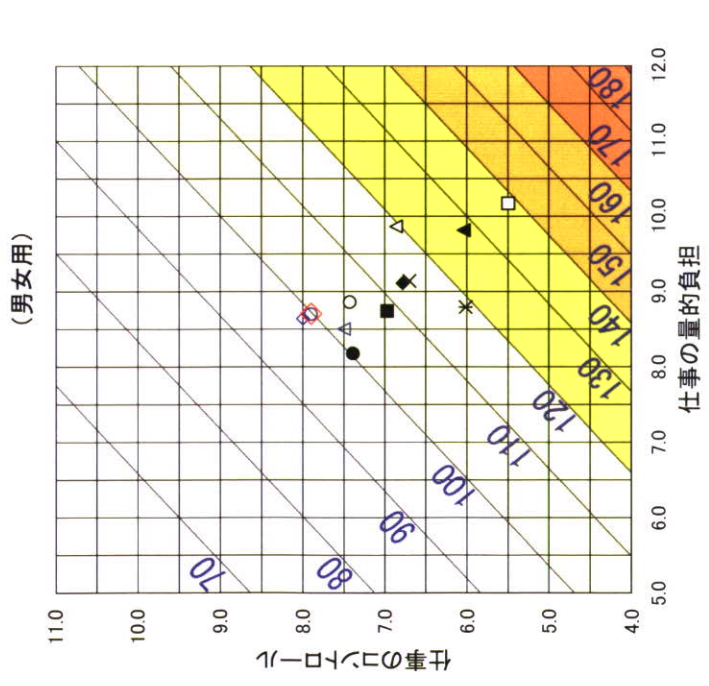
Q8 最近1ヶ月間のあなたの状態についてうかがいます。最も当てはまるものを選んでください。(その3)(必須)

	ほとんどなかった	ときどきあった	しばしばあった	ほとんどいつもあった
頭が重かったり頭痛がする	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
首筋や肩がこる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
腰が痛い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

表3. 平成18年度、平成19年度の結果からみた研修歯科医のメンタルヘルスの総合した健康リスクの推移



臨床研修施設種別でみた結果 (第1回目アンケート)
簡易調査票用仕事のストレス判定図



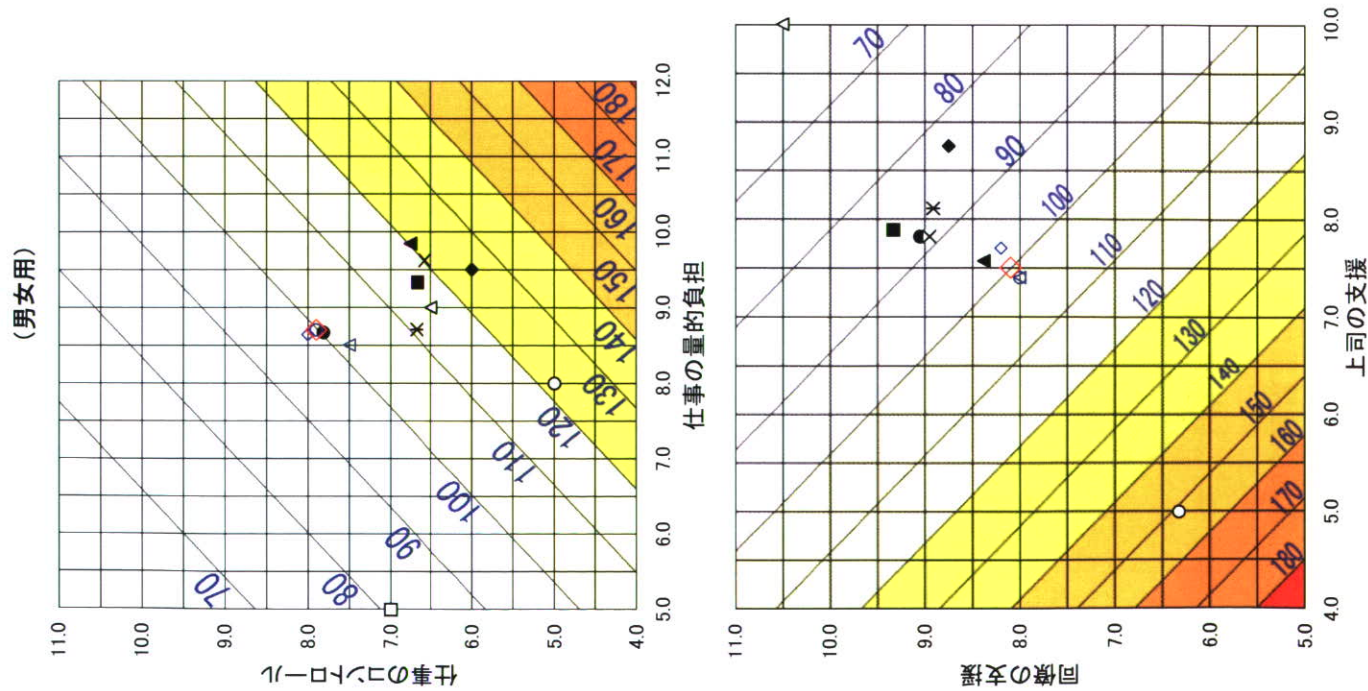
- 歯科大学病院(単独型)
- 一般病院歯科(単独型)
- ▲ 病院口腔外科(単独型)
- × 大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)
- * 大学病院(管理型)+診療所(協力型)
- 一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)
- 診療所(管理型)+診療所(協力型)
- △ 病院口腔外科(管理型)+診療所(協力型)
- ◆ その他

参考値
◇ 全国平均 ○ 専門職 ◇ 事務職 △ 現業職

○ 職場別の比較

職場	健康リスク							
	人的負担(点)	上司の支援(点)	同僚の支援(点)	職場の支援(点)	健康リスク			
歯科大学病院(単独型)	236	8.2	7.4	7.9	9.3	100	86	86
一般病院歯科(単独型)	31	8.7	7.0	8.5	8.7	108	85	91
病院口腔外科(単独型)	95	9.8	6.0	7.9	8.5	128	92	117
大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)	76	9.1	6.7	7.5	8.8	115	93	106
大学病院(管理型)+診療所(協力型)	258	8.8	6.0	7.3	8.2	119	101	120
一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)	7	8.9	7.4	9.3	9.7	105	71	74
診療所(管理型)+診療所(協力型)	6	10.2	5.5	6.0	7.3	138	124	171
病院口腔外科(管理型)+診療所(協力型)	14	9.9	6.9	8.1	8.4	119	91	108
その他	9	9.1	6.8	8.4	8.7	113	86	97

簡易調査票用仕事のストレス判定図



○職場別の比較

職場	人					健康リスク				
	平均	標準偏差	コホート	上司	同僚	コホート	上司	同僚	職場の支援	健康リスク
歯科大学病院(単独型)	118	8.7	7.8	7.8	9.1	100	88	88	88	88
一般病院歯科(単独型)	9	9.3	6.7	7.9	9.3	117	85	85	85	99
病院口腔外科(単独型)	58	9.8	6.8	7.6	8.4	120	96	96	96	115
大学病院(管理型)+病院歯科(協力型)	40	9.6	6.6	7.8	9.0	120	89	89	89	106
大学病院(管理型)+診療所(協力型)	110	8.7	6.7	8.1	8.9	111	87	87	87	96
一般病院歯科(管理型)+診療所(協力型)	3	8.0	5.0	5.0	6.3	122	151	151	151	184
診療所(管理型)+診療所(協力型)	1	5.0	7.0	11.0	10.0	81	59	59	59	47
病院口腔外科(管理型)+診療所(協力型)	4	9.0	6.5	10.0	10.5	115	62	62	62	71
その他	4	9.5	6.0	8.8	8.8	125	83	83	83	103

作成日: 2008/3/19

参考値
 ◇ 全国平均 ○ 専門職 ◇ 事務職 △ 現業職

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学医療安全・医療技術評価総合研究事業）
分担研究報告書

「プログラム責任者のメンタルヘルス調査に関する研究」

分担研究者 秋山仁志（日本歯科大学附属病院准教授）

研究要旨：平成 18 年度に必修化された歯科医師臨床研修により、歯科診療に従事しようとする歯科医師は 1 年間以上の歯科医師臨床研修を行うことが義務付けられた。歯科医師臨床研修制度で役職として新設されたプログラム責任者は、研修歯科医ごとの研修の進捗状況を把握・評価し、研修期間の終了時までには、全ての研修歯科医が到達目標を達成できるよう、全研修期間を通じて研修歯科医の指導を行い、研修期間の終了の際に、研修管理委員会に研修歯科医ごとの到達目標の達成状況を研修管理委員会に報告するなど、その職務は極めて重要である。本研究では、プログラム責任者のメンタルヘルスの把握について調査を行った。その結果、回答者数は 102 名（男性 98 名、女性 4 名）であり、平成 19 年度プログラム責任者の 4 割以上から回答を得た。プログラム責任者全体でみた場合、職業性ストレス簡易調査票の分析による健康リスクは 99.0 であり、健康問題が起きるリスクが全国一般の標準的な集団と比較してほとんど変わらない傾向があることが認められた。また、抑うつ状態自己評価尺度（CES-D）でみた結果、プログラム責任者 102 名の最低点が 0 点、最高点が 60 点であり、平均点は 14.2 点（標準偏差 7.4 点）であった。Cut-off point（区分点）の 16 点以上を示したプログラム責任者は、102 名中 34 名（33.3%）であり、プログラム責任者の 3 割が「抑うつ状態」である可能性があることが示唆された。

A. 研究目的

平成 18 年 4 月より歯科医師臨床研修制度が必修化され、歯科診療に従事しようとする歯科医師は 1 年間以上の歯科医師臨床研修を行うことが義務付けられた。臨床研修の目標は、患者中心の全人的医療を理解した上で、歯科医師としての人格を涵養し、総合的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけ、臨床研修を生涯研修の第一歩とすることであり¹⁾、研修歯科医が精神的、経済的に安定して研修に専念できるような研修体制を整備することは、研修歯科医の資質の向上を努めるためにも必要であり、また研修歯科医の職場における健康管理上、重要な問題である。また、歯科医師臨床研修制度で役職として新設されたプログラム責任者は、定期的に、さらに必要に応じて随時、研修歯科医ごとの研修の進捗状況を把握・評価し、研修期間の終了時までには、全ての研修歯科医が到達目標を達成できるよう、全研修期間を通じて研

修歯科医の指導を行い、また修了基準に不足している部分についての研修が行えるようカリキュラムを調整し、研修期間の終了の際に、研修管理委員会に研修歯科医ごとの到達目標の達成状況を研修管理委員会に報告する¹⁾ など、その職務は極めて重要である。

本研究は、新歯科医師臨床研修制度の有効性、効率性を評価するとともに、制度の見直しのための基礎的資料を得ることを目的として、歯科医師臨床研修の円滑な運営に重要な役割を担うプログラム責任者の実態とメンタルヘルスの把握について調査を行った。

B. 研究方法

1. 対象

平成 19 年度に新歯科医師臨床研修制度に参画している単独型臨床研修施設、管理型臨床研修施設のプログラム責任者 229 名²⁾を対象とした。

2. 調査期間とアンケート方法

調査期間は、平成 20 年 2 月 12 日から平成 20 年 3 月 3 日までとした。プログラム責任者対象のメンタルヘルスに関するアンケート調査は、厚生労働省が運営する歯科医師臨床研修プログラム検索サイト D-REIS (<http://www.d-reis.org>) からリンクを張った「新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」のホームページ上で回答ができるように整備した。アンケートに回答を行うプログラム責任者は、本研究班ホームページ <http://www.drmp.jp/kenkyuhan> にアクセス後、アンケートリスト中の「プログラム責任者の方」をクリックし、所属の研修施設にあらかじめ配付したログイン ID、パスワードを入力の上、プログラム責任者向けアンケートのページへと進む。プログラム責任者向けアンケートページ中に「プログラム責任者のメンタルヘルスに関する調査」があり、アンケート開始をクリックし、設問に回答する。すべての回答の終了後、最後に送信ボタンを押し、確認のページに進み、確認のページの最下部の送信ボタンを押して終了とする。

「プログラム責任者のメンタルヘルスに関する調査」は、本研究班ホームページ上に実施責任者および実施者を明示し、新歯科医師臨床研修制度の評価に関する調査研究班個人情報保護方針を定め、実施目的を明確にし、本研究の成果はご回答者個人を特定できない形で集計し、公表することを明記した。アンケートの回答には、ログイン時にのみ部外者の侵入を防止するために、ログイン ID、パスワードを必要としたが、アンケートに対する回答に関しては、プログラム責任者の自由意志で行い、強制力がないものとした。さらにプログラム責任者に不利益をもたらさないように、個人の識別を不可能とし、プライバシーの保護に関しては十分に配慮した。

3. ストレス調査項目

アンケート調査項目数は、すべての設問に回答するのに 5~10 分程度の時間で終わることができるように設定した。調査項目は、性別、年代、職階、所属する臨床研修施設の種別、受け持つ研修プログラム数、研修プログラムに含まれる協力型

臨床研修施設数、研修プログラムに含まれる研修協力施設数、仕事量からみた臨床研修に費やす時間の割合、研修プログラムに所属する研修歯科医数（複数のプログラムを受け持つ場合は受け持つ研修歯科医の合計数）、研修プログラムに所属する副プログラム責任者数（複数のプログラムを受け持つ場合は副プログラム責任者の合計数）、ストレス要因の認知として、簡易職業性ストレス評価票³⁾の 57 項目、ストレス反応としての抑うつ状態の評価に抑うつ状態自己評価尺度（CES-D）（The Center For Epidemiologic Studies-Depression、株式会社千葉テストセンター）⁴⁾の 20 項目、プログラム責任者として「ストレスを感じる事」についての自由記載項目の合計 88 項目とした。

「プログラム責任者のメンタルヘルスに関する調査」で使用した調査票は、表 1 に示す。

4. 倫理面への配慮

本研究は、東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の審査の結果、承認を得て施行した。

5. 分析方法

職業性ストレス簡易調査票³⁾の各調査項目は、各尺度に該当する項目の点数を算出し、その点数を 5 段階に換算して評価する標準化得点を用いた方法を用いて分析した。さらに仕事のストレス判定図として、仕事の量的負担と仕事のコントロールをストレス要因として、それらから算出されたストレス度を健康リスクとしてプロットして表現した「量-コントロール判定図」、同僚の支援と上司の支援から作成する「職場の支援判定図」を作成し、量-コントロールリスク、職場の支援リスク、総合した健康リスクを算出した。職業性ストレス簡易調査票³⁾を用いた分析対象項目は、性別、年代、職階、所属する臨床研修施設の種別、受け持つ研修プログラム数、仕事量からみた臨床研修に費やす時間の割合とした。

抑うつ状態自己評価尺度（CES-D）⁴⁾は、スクリーニングテストの 1 つであり、幼児から成人とその適用範囲は広く、実施判定が簡便である。抑うつ気分、不眠、食欲低下などのうつ病の主要症状が含まれた 20 項目の設問から構成され、設問の 4、

8, 12, 16 項目は逆転項目として組み込まれており、4 段階評価で 0~3 点に換算して集計する⁵⁾。抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ の Cut-off point (区分点) は、16 点であり、16 点以上を「抑うつ状態」とし、「抑うつ状態」の割合を調べた。抑うつ状態自己評価尺度 (CES-D)⁴⁾ を用いた分析対象項目は、性別、年代、職階、所属する臨床研修施設の種別、受け持つ研修プログラム数、研修プログラムに含まれる協力型臨床研修施設数、研修プログラムに含まれる研修協力施設数、仕事量からみた臨床研修に費やす時間の割合、研修プログラムに所属する研修歯科医数、研修プログラムに所属する副プログラム責任者数とした。

C. 研究結果

1. プログラム責任者のメンタルヘルスに関するアンケート調査結果

プログラム責任者のメンタルヘルスに関するアンケートの総回答者数は、102 名であった。

1) 性別でみた内訳

性別でみた内訳は、男性 98 名 (96.1%)、女性 4 名 (3.9%) であった。

2) 年齢別でみた割合

年齢別でみた割合は、20 歳代が 0 名 (0.0%)、30 歳代が 3 名 (2.9%)、40 歳代が 40 名 (39.2%)、50 歳代が 47 名 (46.1%)、60 歳代が 12 名 (11.8%) であった。

3) 職階別でみた割合

職階別でみた割合は、「助教」が 4 名 (3.9%)、「講師」が 9 名 (8.8%)、「准教授」が 15 名 (14.7%)、「教授」が 33 名 (32.4%)、「その他」が 41 名 (40.2%) であった。

4) 所属する臨床研修施設別でみた割合

(1) 単独型臨床研修施設

所属する臨床研修施設別でみた割合は、「大学病院」が 46 名 (45.1%)、「病院口腔外科」が 30 名 (29.4%)、「一般病院歯科」が 4 名 (3.9%)、「診療所」が 3 名 (2.9%)、「無回答」が 19 名 (18.6%)

であった。

(2) 管理型臨床研修施設

所属する臨床研修施設別でみた割合は、「大学病院」が 33 名 (32.4%)、「病院口腔外科」が 5 名 (4.9%)、「一般病院歯科」が 2 名 (2.0%)、「診療所」が 2 名 (2.0%)、「無回答」が 60 名 (58.8%) であった。

5) 受け持つ研修プログラム数でみた割合

受け持つ研修プログラム数でみた割合は、「1 プログラム」が 73 名 (71.6%)、「2 プログラム」が 19 名 (18.6%)、「3 プログラム」が 8 名 (7.8%)、「4 プログラム」が 2 名 (2.0%)、「5 プログラム以上」が 0 名 (0.0%) であった。

6) 研修プログラムに含まれる協力型臨床研修施設数でみた割合

研修プログラムに含まれる協力型臨床研修施設数でみた割合は、「0 施設」が 56 名 (54.9%)、「1~10 施設」が 25 名 (24.5%)、「11~20 施設」が 1 名 (1.0%)、「21~30 施設」が 4 名 (3.9%)、「31~40 施設」が 3 名 (2.9%)、「41~50 施設」が 1 名 (1.0%)、「51~60 施設」が 0 名 (0.0%)、「61~70 施設」が 1 名 (1.0%)、「71~80 施設」が 3 名 (2.9%)、「81~90 施設」が 3 名 (2.9%)、「91~100 施設」が 0 名 (0.0%)、「101 施設以上」が 5 名 (4.9%)、「無回答」が 0 名 (0.0%) であった。

7) 研修プログラムに含まれる研修協力施設数でみた割合

研修プログラムに含まれる研修協力施設数でみた割合は、「0 施設」が 56 名 (54.9%)、「1~10 施設」が 42 名 (41.2%)、「11~20 施設」が 2 名 (2.0%)、「21~30 施設」が 0 名 (0.0%)、「31~40 施設」が 1 名 (1.0%)、「41~50 施設」が 0 名 (0.0%)、「50 施設以上」が 1 名 (1.0%)、「無回答」が 0 名 (0.0%) であった。

8) プログラム責任者の仕事量からみた臨床研修に費やす時間でみた割合

プログラム責任者の仕事量からみた臨床研修に

費やす時間の割合でみた割合は、「1～10%」が14名(13.7%)、「11～20%」が43名(42.2%)、「21～30%」が20名(19.6%)、「31～40%」が7名(6.9%)、「41～50%」が3名(2.9%)、「51～60%」が1名(1.0%)、「61～70%」が4名(3.9%)、「71～80%」が5名(4.9%)、「81～90%」が5名(4.9%)、「91～100%」が0名(0.0%)、「無回答」が0名(0.0%)であった。

9) 研修プログラムに所属する研修歯科医数でみた割合

研修プログラムに所属する研修歯科医数でみた割合は、「1～5名」が65名(63.7%)、「6～10名」が9名(8.8%)、「11～20名」が3名(2.9%)、「21～30名」が4名(3.9%)、「31～40名」が3名(2.9%)、「41～50名」が3名(2.9%)、「51～60名」が5名(4.9%)、「61～70名」が4名(3.9%)、「71～80名」が1名(1.0%)、「81～90名」が0名(0.0%)、「91～100名」が2名(2.0%)、「101名以上」が3名(2.9%)、「無回答」が0名(0.0%)であった。

10) 研修プログラムに所属する副プログラム責任者数でみた割合

研修プログラムに所属する副プログラム責任者数でみた割合は、「0名」が39名(38.2%)、「1名」が26名(25.5%)、「2名」が13名(12.7%)、「3名」が6名(5.9%)、「4名」が5名(4.9%)、「5名」が5名(4.9%)、「その他」が8名(7.8%)、「無回答」が0名(0.0%)であった。

11) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「仕事について」の項目でみた割合

(1)「非常にたくさんのことをしなければならない」への回答

「そうだ」が53名(52.0%)、「まあそうだ」が45名(44.1%)、「ややちがう」が4名(3.9%)、「ちがう」が0名(0.0%)であった。

(2)「時間内に仕事を処理しきれない」への回答

「そうだ」が39名(38.2%)、「まあそうだ」が45名(44.1%)、「ややちがう」が16名(15.7%)、「ちがう」が2名(2.0%)であった。

(3)「一生懸命働かなければならない」への回答

「そうだ」が57名(55.9%)、「まあそうだ」が39名(38.2%)、「ややちがう」が6名(5.9%)、「ちがう」が0名(0.0%)であった。

(4)「かなり注意を集中する必要がある」への回答

「そうだ」が58名(56.9%)、「まあそうだ」が41名(40.2%)、「ややちがう」が3名(2.9%)、「ちがう」が0名(0.0%)であった。

(5)「高度の知識や技術が必要なむずかしい仕事だ」への回答

「そうだ」が35名(34.3%)、「まあそうだ」が45名(44.1%)、「ややちがう」が22名(21.6%)、「ちがう」が0名(0.0%)であった。

(6)「勤務時間中はいつも仕事のことを考えていなければならない」への回答

「そうだ」が49名(48.0%)、「まあそうだ」が39名(38.2%)、「ややちがう」が14名(13.7%)、「ちがう」が0名(0.0%)であった。

(7)「からだを大変よく使う仕事だ」への回答

「そうだ」が41名(40.2%)、「まあそうだ」が39名(38.2%)、「ややちがう」が22名(21.6%)、「ちがう」が0名(0.0%)であった。

(8)「自分のペースで仕事ができる」への回答

「そうだ」が2名(2.0%)、「まあそうだ」が35名(34.3%)、「ややちがう」が41名(40.2%)、「ちがう」が24名(23.5%)であった。

(9)「自分で仕事の順番・やり方を決めることができる」への回答

「そうだ」が12名(11.8%)、「まあそうだ」が55名(53.9%)、「ややちがう」が28名(27.5%)、「ちがう」が7名(6.9%)であった。

(10)「職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる」への回答

「そうだ」が27名(26.5%)、「まあそうだ」が64名(62.7%)、「ややちがう」が10名(9.8%)、「ちがう」が1名(1.0%)であった。

(11)「自分の技術や知識を仕事で使うことが少ない」への回答

「そうだ」が1名(1.0%)、「まあそうだ」が14名(13.7%)、「ややちがう」が39名(38.2%)、「ちがう」が48名(47.1%)であった。

(12) 「私の部署内で意見の食い違いがある」への回答

「そうだ」が3名(2.9%)、「まあそうだ」が25名(24.5%)、「ややちがう」が50名(49.0%)、「ちがう」が24名(23.5%)であった。

(13) 「私の部署と他の部署とはうまが合わない」への回答

「そうだ」が1名(1.0%)、「まあそうだ」が10名(9.8%)、「ややちがう」が54名(52.9%)、「ちがう」が37名(36.3%)であった。

(14) 「私の職場の雰囲気は友好的である」への回答

「そうだ」が43名(42.2%)、「まあそうだ」が56名(54.9%)、「ややちがう」が2名(2.0%)、「ちがう」が1名(1.0%)であった。

(15) 「私の職場の作業環境(騒音、照明、温度、換気など)はよくない」への回答

「そうだ」が7名(6.9%)、「まあそうだ」が20名(19.6%)、「ややちがう」が44名(43.1%)、「ちがう」が31名(30.4%)であった。

(16) 「仕事の内容は自分にあっている」への回答

「そうだ」が30名(29.4%)、「まあそうだ」が55名(53.9%)、「ややちがう」が13名(12.7%)、「ちがう」が4名(3.9%)であった。

(17) 「働きがいのある仕事だ」への回答

「そうだ」が31名(30.4%)、「まあそうだ」が55名(53.9%)、「ややちがう」が14名(13.7%)、「ちがう」が2名(2.0%)であった。

12) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「最近1カ月間のあなたの状態について」の項目でみた割合

(1) 「活気がわいてくる」への回答

「ほとんどなかった」が10名(9.8%)、「ときどきあった」が45名(44.1%)、「しばしばあった」、39名(38.2%)、「ほとんどいつもあった」が8名(7.8%)であった。

(2) 「元気がいっぱいだ」への回答

「ほとんどなかった」が15名(14.7%)、「ときどきあった」が42名(41.2%)、「しばしばあった」が36名(35.3%)、「ほとんどいつもあった」が9名(8.8%)であった。

(3) 「生き生きする」への回答

「ほとんどなかった」が10名(9.8%)、「ときどきあった」が52名(51.0%)、「しばしばあった」が31名(30.4%)、「ほとんどいつもあった」が9名(8.8%)であった。

(4) 「怒りを感じる」への回答

「ほとんどなかった」が18名(17.6%)、「ときどきあった」が56名(54.9%)、「しばしばあった」が22名(21.6%)、「ほとんどいつもあった」が6名(5.9%)であった。

(5) 「内心腹立たしい」への回答

「ほとんどなかった」が22名(21.6%)、「ときどきあった」が56名(54.9%)、「しばしばあった」が19名(18.6%)、「ほとんどいつもあった」が5名(4.9%)であった。

(6) 「イライラしている」への回答

「ほとんどなかった」が22名(21.6%)、「ときどきあった」が57名(55.9%)、「しばしばあった」が18名(17.6%)、「ほとんどいつもあった」が5名(4.9%)であった。

(7) 「ひどく疲れた」への回答

「ほとんどなかった」が15名(14.7%)、「ときどきあった」が46名(45.1%)、「しばしばあった」が27名(26.5%)、「ほとんどいつもあった」が14名(13.7%)であった。

(8) 「へとへとだ」への回答

「ほとんどなかった」が30名(29.4%)、「ときどきあった」が45名(44.1%)、「しばしばあった」が15名(14.7%)、「ほとんどいつもあった」が12名(11.8%)であった。

(9) 「だるい」への回答

「ほとんどなかった」が21名(20.6%)、「ときどきあった」が48名(47.1%)、「しばしばあった」が24名(23.5%)、「ほとんどいつもあった」が9名(8.8%)であった。

(10) 「気がはりつめている」への回答

「ほとんどなかった」が6名(5.9%)、「ときどきあった」が36名(35.3%)、「しばしばあった」が37名(36.3%)、「ほとんどいつもあった」が23名(22.5%)であった。

(11) 「不安だ」への回答

「ほとんどなかった」が37名(36.3%)、「とき

どきあった」が51名(50.0%)、「しばしばあった」が10名(9.8%)、「ほとんどいつもあった」が4名(3.9%)であった。

(12)「落ち着きがない」への回答

「ほとんどなかった」が45名(44.1%)、「ときどきあった」が46名(45.1%)、「しばしばあった」が9名(8.8%)、「ほとんどいつもあった」が2名(2.0%)であった。

(13)「ゆううつだ」への回答

「ほとんどなかった」が38名(37.3%)、「ときどきあった」が50名(49.0%)、「しばしばあった」が10名(9.8%)、「ほとんどいつもあった」が4名(3.9%)であった。

(14)「何をするのも面倒だ」への回答

「ほとんどなかった」が49名(48.0%)、「ときどきあった」が46名(45.1%)、「しばしばあった」が6名(5.9%)、「ほとんどいつもあった」が1名(1.0%)であった。

(15)「物事に集中できない」への回答

「ほとんどなかった」が50名(49.0%)、「ときどきあった」が46名(45.1%)、「しばしばあった」が6名(5.9%)、「ほとんどいつもあった」が0名(0.0%)であった。

(16)「気分が晴れない」への回答

「ほとんどなかった」が36名(35.3%)、「ときどきあった」が49名(48.0%)、「しばしばあった」が14名(13.7%)、「ほとんどいつもあった」が3名(2.9%)であった。

(17)「仕事が手につかない」への回答

「ほとんどなかった」が69名(67.6%)、「ときどきあった」が32名(31.4%)、「しばしばあった」が1名(1.0%)、「ほとんどいつもあった」が0名(0.0%)であった。

(18)「悲しいと感じる」への回答

「ほとんどなかった」が69名(67.6%)、「ときどきあった」が26名(25.5%)、「しばしばあった」が4名(3.9%)、「ほとんどいつもあった」が3名(2.9%)であった。

(19)「めまいがする」への回答

「ほとんどなかった」が81名(79.4%)、「ときどきあった」が20名(19.6%)、「しばしばあった」が1名(1.0%)、「ほとんどいつもあった」が0

名(0.0%)であった。

(20)「体のふしぶしが痛む」への回答

「ほとんどなかった」が71名(69.6%)、「ときどきあった」が22名(21.6%)、「しばしばあった」が5名(4.9%)、「ほとんどいつもあった」が4名(3.9%)であった。

(21)「頭が重かったり頭痛がする」への回答

「ほとんどなかった」が66名(64.7%)、「ときどきあった」が26名(25.5%)、「しばしばあった」が9名(8.8%)、「ほとんどいつもあった」が1名(1.0%)であった。

(22)「首筋や肩がこる」への回答

「ほとんどなかった」が25名(24.5%)、「ときどきあった」が36名(35.3%)、「しばしばあった」が22名(21.6%)、「ほとんどいつもあった」が19名(18.6%)であった。

(23)「腰が痛い」への回答

「ほとんどなかった」が38名(37.3%)、「ときどきあった」が31名(30.4%)、「しばしばあった」が20名(19.6%)、「ほとんどいつもあった」が13名(12.7%)であった。

(24)「目が疲れる」への回答

「ほとんどなかった」が9名(8.8%)、「ときどきあった」が45名(44.1%)、「しばしばあった」が28名(27.5%)、「ほとんどいつもあった」が20名(19.6%)であった。

(25)「動悸や息切れがする」への回答

「ほとんどなかった」が75名(73.5%)、「ときどきあった」が20名(19.6%)、「しばしばあった」が6名(5.9%)、「ほとんどいつもあった」が1名(1.0%)であった。

(26)「胃腸の具合が悪い」への回答

「ほとんどなかった」が52名(51.0%)、「ときどきあった」が42名(41.2%)、「しばしばあった」が5名(4.9%)、「ほとんどいつもあった」が3名(2.9%)であった。

(27)「食欲がない」への回答

「ほとんどなかった」が77名(75.5%)、「ときどきあった」が25名(24.5%)、「しばしばあった」が0名(0.0%)、「ほとんどいつもあった」が0名(0.0%)であった。

(28)「便秘や下痢をする」への回答

「ほとんどなかった」が48名(47.1%)、「ときどきあった」が41名(40.2%)、「しばしばあった」が9名(8.8%)、「ほとんどいつもあった」が4名(3.9%)であった。

(29)「よく眠れない」への回答

「ほとんどなかった」が58名(56.9%)、「ときどきあった」が34名(33.3%)、「しばしばあった」が7名(6.9%)、「ほとんどいつもあった」が3名(2.9%)であった。

13) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「あなたの周りの方々について」の項目でみた割合

(1)「次の人たちにはどのくらい気軽に話ができますか」への回答

a. 上司

「非常に」が25名(24.5%)、「かなり」が35名(34.3%)、「多少」が39名(38.2%)、「全くない」が3名(2.9%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が42名(41.2%)、「かなり」が42名(41.2%)、「多少」が17名(16.7%)、「全くない」が1名(1.0%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が55名(53.9%)、「かなり」が34名(33.3%)、「多少」が13名(12.7%)、「全くない」が0名(0.0%)であった。

(2)「あなたが困った時、次の人たちはどのくらい頼りになりますか」への回答

a. 上司

「非常に」が21名(20.6%)、「かなり」が36名(35.3%)、「多少」が38名(37.3%)、「全くない」が7名(6.9%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が18名(17.6%)、「かなり」が53名(52.0%)、「多少」が27名(26.5%)、「全くない」が4名(3.9%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が40名(39.2%)、「かなり」が43名(42.2%)、「多少」が13名(12.7%)、「全くない」が6名(5.9%)であった。

(3)「あなたが個人的な問題を相談したら、次の人たちはどのくらい聞いてくれますか」への回答

a. 上司

「非常に」が10名(9.8%)、「かなり」が36名(35.3%)、「多少」が43名(42.2%)、「全くない」が13名(12.7%)であった。

b. 職場の同僚

「非常に」が12名(11.8%)、「かなり」が48名(47.1%)、「多少」が36名(35.3%)、「全くない」が6名(5.9%)であった。

c. 配偶者、家族、友人等

「非常に」が46名(45.1%)、「かなり」が40名(39.2%)、「多少」が12名(11.8%)、「全くない」が4名(3.9%)であった。

14) 職業性ストレス簡易調査票³⁾における「満足度について」の項目でみた割合

(1)「仕事に満足だ」への回答

「満足」が19名(18.6%)、「まあ満足」が65名(63.7%)、「やや不満足」が15名(14.7%)、「不満足」が3名(2.9%)であった。

(2)「家庭生活に満足だ」への回答

「満足」が37名(36.3%)、「まあ満足」が50名(49.0%)、「やや不満足」が14名(13.7%)、「不満足」が1名(1.0%)であった。

15) 抑うつ状態自己評価尺度(CES-D)⁴⁾の項目でみた割合

(1)「普段ではなんでもないことがわずらわしかった」への回答

「ない」が52名(51.0%)、「週に1~2日」が41名(40.2%)、「週に3~4日」が7名(6.9%)、「週に5日以上」2名(2.0%)であった。

(2)「食べたくなかった・食欲がなかった」への回答

「ない」が84名(82.4%)、「週に1~2日」が17名(16.7%)、「週に3~4日」が1名(1.0%)、「週に5日以上」が0名(0.0%)であった。

(3)「たとえ家族や友人が助けてくれたとしても、ゆううつな気分は晴れないと感じた」への回答

「ない」が71名(69.6%)、「週に1~2日」が26名(25.5%)、「週に3~4日」が4名(3.9%)、「週に5日以上」が1名(1.0%)であった。

(4)「自分は、他の人と同じくらいに価値がある